

2014 年 4 月 5 日刊行

『シリーズ 21 世紀の農学』

「農学イノベーション-新しいビジネスモデルと食・農・環境における技術革新-」

日本農学会編

出版：養賢堂

日本農業は大きな転機を迎えて、従来の水田農業を中心とした主穀生産は、農学主導で現在まで技術革新がすすめられ、食料の安定供給を担う重要な役割を果たしています。一方、流通部門が主導するビジネスモデルが、主穀以外の様々な農林水産物を中心にいわゆる「6次産業」として成功を納め、地域農業を再生しつつあります。農学が今後の日本農業の発展にどのように貢献できるかを考えると、「6次産業」への貢献が重要になる。ところが、現状では分子生物学のような基礎研究、病理学や土壌肥料学のような生産環境研究、農業機械・農業工学のような工学部門を含めても、その大半が主穀生産部門に注がれているのが現状です。シンポジウムでは、6次産業として成功しているビジネスモデルの紹介、主穀以外の様々な農林水産物のビジネスモデルと技術革新の話題、農学が主穀以外の部門で貢献するための発展方向を打ち出しました。本書は、その成果の概要を詳細にわかりやすくまとめ、充実した内容の1冊となっています。研究者はもとより、学生や一般の方々など関心のある方にもお奨めします。



◆体裁 A5判 約200ページ
◆定価 2,000円(税込)

■主な収載項目■

- 第1章 「6次産業のビジネスモデルとフードチェーン」 (千葉大学 斎藤 修)
- 第2章 「果物の六次産業化のビジネスモデルを考える」 (農研機構 果樹研究所 小川 一紀)
- 第3章 「『忘れられた家畜』ヤギ製品の需要喚起とその市場性」 (日本獣医生命科学大学 小澤 壮行)
- 第4章 「ストップ・清酒離れ 酒造りの技術を活かす」 (月桂冠株式会社 秦 洋二)
- 第5章 「エビの陸上養殖最新動向」 (株式会社アイ・エム・ティー 野原 節雄)
- 第6章 「農畜産バイオマスのエネルギー利用」 (農研機構・中央農業総合研究センター 薬師堂 謙一)
- 第7章 「林産学ルネッサンス」 (東京大学 鮫島 正浩)
- 第8章 「ポスト成長時代の農業イノベーション-農業経済学は技術革新をどう捉えてきたか-」 (名古屋大学 生源寺 真一)